

決算審査特別委員会

第61号議案・平成27年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について及び第62号議案・平成27年度白石市水道事業会計利益の処分及び決算の認定並びに白石市下水道事業会計決算の認定についての2議案は、定例会2日目(9月5日)の本会議において質疑が行われた後、議長及び監査委員(小川正人)を除く全議員で構成する決算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会(委員長・山谷清、副委員長・志村新一郎)は、9月7日及び8日の2日間にわたり審査を行い、表決の結果、全会一致で認定及び原案のとおり可決しました。

審査の中で議論された主な点は次のとおりです。

一般会計

総務費

〔質疑〕広報広聴の生き生きメールで、市民からさまざまな提案・提言を受けているが、市政運営に反映させた提案・提言はどのようなものがあるのか伺う。

〔答弁〕市民からの提案・提言は33件で、主なものとして

「高齢者向けの温泉観光を推進してはどうか」「市街地の玄関口の東西南北各所に草花の植栽をしてはどうか」という意見を、関係各課に連絡して調整を図っている。

〔質疑〕花と緑のまちづくり事業について、平成27年度に奨励金を新設しているが、申請件数が1団体で、交付額が3万1千円と少ない。

この奨励金申請に、どのくらい期待していたのか伺う。

〔答弁〕花と緑のまちづくり奨励金は、予算額70万円で予算の半分くらいを目標に努力をしていたが、実績は1件のみであった。ホームページや広報しろいしで周知はしてきたが、認知度が低くPR不足であったと考える。

そのため、オープンガーデンにご協力いただいている方々に声かけをして、奨励金の活用をお願いしてきた。

しかし、庭づくりは個人の力でやりたいとお断りされている。それ以外にも、個人2件と団体1件の計3件の相談はあったが、申請までには至らなかった状況である。

〔質疑〕スパッシュランドしろいし費について、平成27年度はイベントも多く開催し、来館者も1千265人増えているが、売り上げ収入が減っている。その詳細を伺う。

〔答弁〕日帰り利用が多く、合宿などの宿泊での利用が、前年度対比で234人減である。そのため、宿泊料収入が減少している。

レストラン収入は、宿泊利

用の減少や日替わり弁当の売り上げも減少しており、前年度対比で84万5千997円の減となっている。

物販収入は、前年度対比で65万1千459円の減となっている。売れ筋商品の販売減少と新商品への購入に結びつかなかったものと考ええる。

現在でも、商品に健康食品を加えたり、レストランのメニューを変えるなど、いろいろと試行錯誤しながら検討しているところである。

民生費

〔質疑〕高齢者福祉事業の高齢者タクシー利用助成事業について、104人に利用券が交付され、交付枚数は3千132枚となっている。しかし、利用枚数が1千309枚と少ないが、この利用状況をどのように考えているのか伺う。

〔答弁〕この助成事業は、1カ月当たり3枚で一人当たり36枚交付している。対象者は、65歳以上で要介護3から5の

認定を受けた方と市民税非課税の方に交付をしている。利用状況については、必要な場合に使われているものと考えている。

〔質疑〕ファミリーサポートセンターの運営状況について、前年度と比較して会員数や援助活動件数などが減っているが、決算額は36万円ほど増えている。その理由について伺う。

〔答弁〕講演会等の回数に変わりは無いが、講師への謝礼などが増えたためである。

〔質疑〕子育て支援事業の誕生祝い金とすくすくベビー券贈呈事業について、その利用状況を伺う。

〔答弁〕誕生祝い金の利用実績は、把握していない。すくすくベビー券については、毎月、指定薬局からの請求書で確認している。平成28年3月末現在で、贈呈額79万2千円に対し、支出額は62万8千円である。贈呈人数198人のうち157人が利用している。